

景観まちづくり情報シート(受託事業)

活動団体名	公益社団法人静岡県建築士会 景観整備機構
受託事業名	建築士等が災害時に歴史的価値保全復旧手法を提示する活動のためのマニュアル整備と、当該活動への参加意識調査を通じたマニュアルの実用性向上
受託先	国土交通省
事業年度	平成 25 年度 歴史的風致維持向上推進等調査 (委託費: 6,425 千円)

事業の概要

本事業は、前年度に引き続き国土交通省都市局が公募した「歴史的風致維持向上推進等調査」に応募し、採択され委託事業として実施したものである。

<調査概要>

- ・平成24年度に歴史まちづくりネットワークを構築した調査団体（静岡県建築士会）が災害時を想定した建築士などの専門家派遣調整、派遣後の被害状況調査、歴史的価値保全復旧手法検討及び提示のマニュアルについて、図上訓練や実際の歴史的建造物のケーススタディを通じて作成することにより、その活動実施のための体制整備に必要な知見を得る調査。
- ・図上訓練（浜松市入野地区を対象）の実施により発災から半年までの派遣要員（建築士）の行動をシミュレーションし災害等行動マニュアルを作成するとともに、歴史的建造物の建物価値、被害想定等における所有者への提示・意向把握を踏まえ、事前復旧及び被災後復旧のマニュアルを作成して、行政や職人、関係機関との連携及び所有者との関係づくりの重要性を明らかにした。

■災害時調査等行動マニュアルの検討

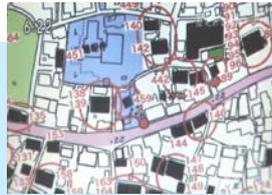
◇事前準備

- ・現況調査の実施（歴史的建造物の存在、建築士在住場所等）
- ・防災地図の作成（歴史的建造物、防災関連施設：避難施設・緊急医療施設・消火栓等）

◇図上訓練の実施

- ・発災後1週間、2週間、1ヶ月、2ヶ月、恒久対応の各段階における行動をシミュレーションし課題等の洗い出し

- ◇発災後の対応、緊急調査：応急危険度判定との連携、被災状況調査、応急措置等の調査派遣マニュアルを作成



■建築士へのアンケート

◇建築士の参加意識

- ・歴史的建造物調査への参加意向 65%
- ・災害時被災状況調査への参加意向 55%
- ・参加しない場合の理由等
時間なく他にやることある 58%
- 知識がない 32%
- 実績がない 24%
- 興味がない 11%

■歴史的建造物の価値復旧手法の検討

◇ケーススタディの実施：旅館、町家、蔵の5件

- ・所有者への提示：建物の価値、地震による被災想定、被害軽減のための現時点での改修案の提案

◇所有者の意識の変化

- ・被害想定前後での所有者の意識に大きな変化無し
- ・被害（倒壊）は想定範囲内であることが判明
- ・事前の対応（補強工事等）は経費がかかり困難

◇事前復旧、及び被災後の復旧のマニュアルを作成

- ・事前復旧…平常時における対応
- ・被災後復旧…被災調査→応急措置→復旧調査→手法検討の段階的な対応
- ・建物価値を損なわない復旧、解体しない措置、対応



◇マニュアルへの反映

- ・若い年代は知識と経験の無さ、40歳代は仕事と家計費の問題、高齢年代は体力的理由から、参加が難しい→経験ある元気な60歳代の参加を促す
- ・事前の図上訓練シミュレーション、被災時調査ルート検討等の現場研修の実施
- ・職人等ネットワーク強化

「災害時調査等行動マニュアル」及び「歴史的建造物価値復旧手法提示マニュアル」を作成した。

■明らかになったこと

- ・歴史的建造物のデータベースを整えておくこと
- ・行政と共有化し、WEB及び紙ベースとも共有
- ・災害時緊急調査の重要性…所有者への連絡票
- ・価値ある歴史的建造物が解体されない手法の提示

■今後の課題

- 歴史的建造物に関する専門家を増やす
- ・地域文化財専門家研修、ステップアップ研修の継続
- 専門家の地域一様な配置…SHECの着実な活動と運営
- 専門家自らの担当エリアを掌握、所有者と関係づくり